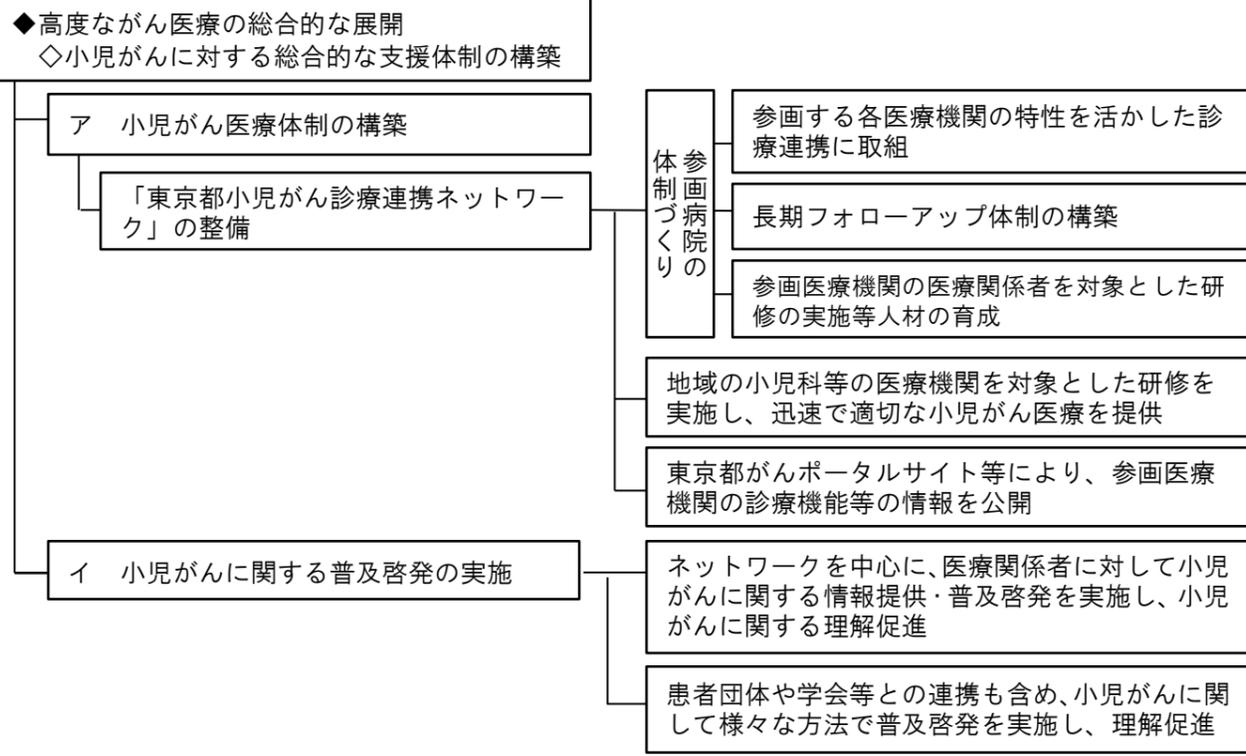


東京都の小児がん対策について

現行計画



(参考) 国の第3期計画 (案)

【患者本位のがん医療の実現】

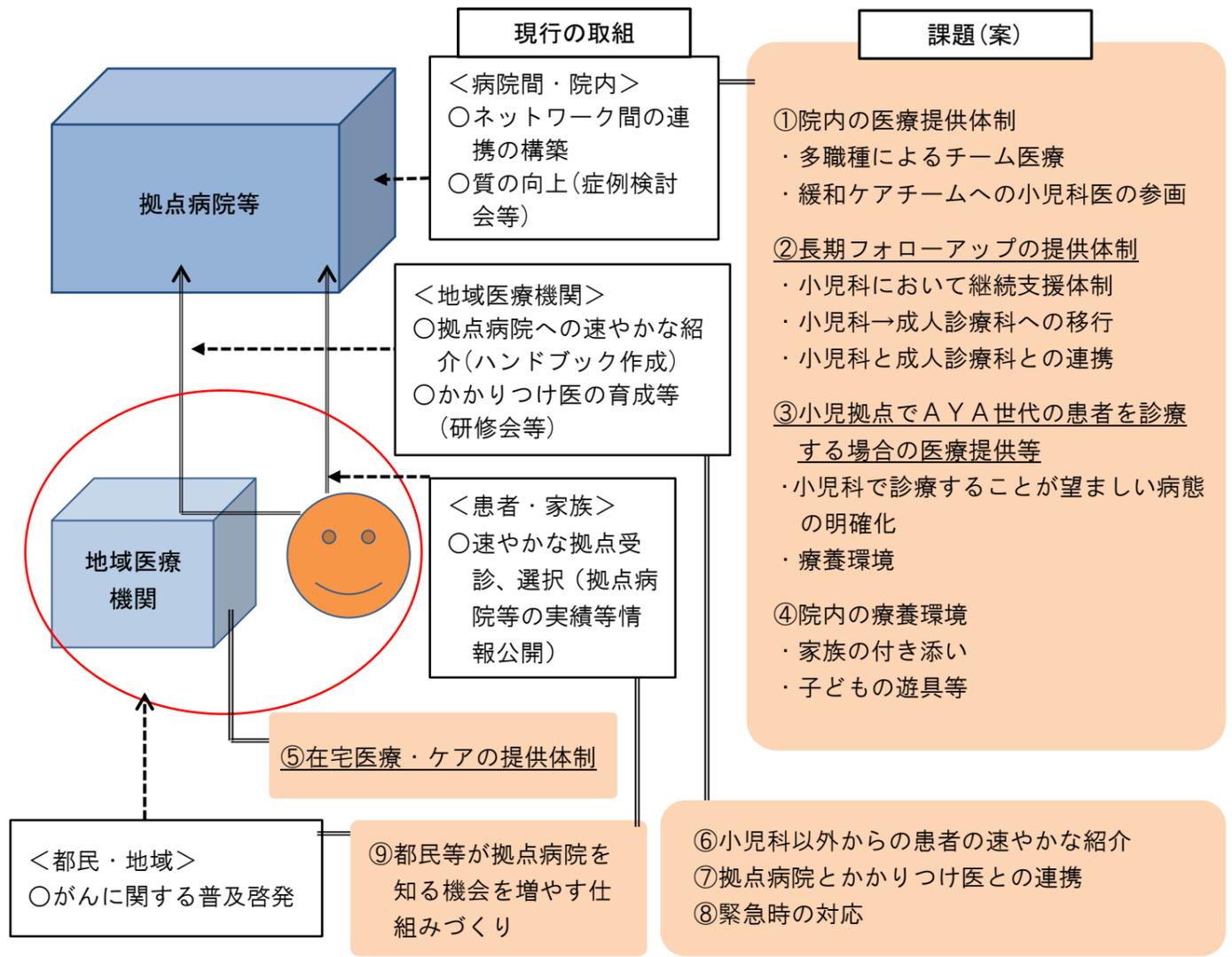
(現状・課題)

- ・標準治療が確立しておらず集約化すべきがん種と、標準治療が確立しておりある程度の均てん化が可能ながん種とを整理することが求められている。
- ・小児がん拠点病院と地域ブロックにおける他の医療機関とのネットワークの整備が求められている。
- ・患者家族の希望に応じて、在宅医療を実施できる支援体制が求められている

(取り組むべき対応)

- ・国は、各地域ブロックにおける小児がん拠点病院の役割、集約化、均てん化の状況を把握した上で、均てん化が可能ながん種や、必ずしも高度の専門性を必要としない病態については、小児がん拠点病院以外の地域の連携病院においても診療が可能な体制を構築

今後の取組の検討課題 (案)



(参考) 患者調査結果等

- ①日帰り通院の可否
 - ・日帰り通院できるが宿泊することが多い 5.9% (都内居住 7.1%)
 - ・日帰りは難しい 7.4% (都内居住 7.8%)
- ②任意の付き添いや日帰り通院できない場合の宿泊先
 - ・病院内での付き添い 62.7%
- ③がんが見つかったきっかけがあった後に受診した医療機関
 - ・自宅近くの小児科診療所 59.0% ・自宅近くの小児科以外の診療所 12.7%
 - ・自宅近くの病院 16.9%
- ④がんと診断されるまでに受診した医療機関数
 - ・1か所 10.8% ・2か所 32.8% ・3か所 35.3%
- ⑤=③×④
 - ・自宅近くの小児科診療所 → 1か所または2か所 38.8%、3か所 46.9%
 - ・自宅近くの小児科以外の診療所 → 1か所または2か所 28.6%、3か所 71.4%
 - ・自宅近くの病院 → 1か所または2か所 50.0%、3か所 25.0%
- ⑥調査病院以外に受診している地域の医療機関の有無
 - ・日常の体調管理は、独自で選んだ自宅近くの医療機関で受けている 23.5%
 - ・うち、初診の際に調査病院に紹介状を書いてもらった人 29.2%
- ⑦在宅の小児がん患者に対する緩和ケアの実施
 - ・「できる」+「応相談」→ 病院 3.8% 診療所 26.1% 訪問看護ST 57.0%